

●竹サインペンの注文 200 本が出来上がる ミニ・イーゼルを思いつきました。

京都府から竹サインペンの注文があり、納付期限が短く製作できるかが大きな課題でした。木下様は注文があればそれにお応えしようとの積極的なご意見だったので、素材（竹割）つくりを開始しました。短期間で木下さんが集中して作業をすすめていただいたので、3月2日に無事200本が完成できました。そしてまさに忙中閑ありで竹サインペンの活用方法を模索する中で二本の竹サインペンで「ミニ・イーゼル」を作りました。



新創作「ミニ・イーゼル」を是非ご利用ください。

暖かい一日でした。
農園部会だより

●3月1日（土）里山農園にて

晴れていて気温も暖かく、8人が集合してくれました。

雨が降らない日が続いているせいで、農園の作物もかなり我慢しています。美味しく育ってくれるかととても心配です。そこで、少しの降雨でも桶に水が溜まるようにと願って、2月25日（火）は2号地近くの洗い場補修をしました。（後日たっぷりと雨が降ってくれました）

3月1日（土）は2号地の北西端部にある樹の泥だし作業を実施しました。かなりの肉体労働でしたが、和気あいあいと頑張りました。また、七草を植えるための準備・種蒔き、草刈りや炭を畑に蒔いたり、炭窯を確認したりと手分けして多くの作業を実施しました。



2号地近くの洗い場補修 と 2号地にある樹の泥だし作業

●2024 年度の活動報告概略

ロシアとウクライナの戦争が終わらず3年目となり、我が国ではコメなどの物価値上げが止まらず苦しい生活となっています。それに伴って公共施設等の利用料金が新設される動きがあるなど、生活への影響が大きくなっています。ヤマトサンショウウオの第2の生育池の発見と維持保全活動としてのアライグマの昼間6匹のアライグマの写真は大きな関心を引きました。また通路確保の除草作業などのイタセンパラの復元を目指す取り組みと第2回親子魚釣り、将棋型竹蛇籠設置など、川活動をさらに発展させる事が出来ました。そして初めてのミツバチとメダカの観察会の実施は新しい活動分野の拡張に進められました。年度当初から9月までの前半期はサークル・ワークショップ会議を10種18回開催して事業推進を図り、生き生きとした活動展開になりました。しかし後半は従来型に戻ってしまいました。

夏の昆虫観察を通じて中学生が参加され、その後の発表で活躍ぶり内容の充実が目を引き、高齢化問題に光明を与え、若さ溢れる元気を振りまいてくれています。年度末に実施した第27回自然と環境講演会の内容充実が結実しました。

2024 年度の主なイベント数は 55 回 総参加人数は 1880 人

里山農園定期作業日参加者数 491 人

木津川希少種植生調査管理業務作業参加者数は 調査活動 196 時間 除草作業 181 時間 集草作業 156 時間

●2025 年度活動方針の概略

新年度の新しいイベントなどの取り組みについては現在（3月6日）提案が無く、24年度事業と同様の内容で継続しつつ、さらに充実発展させる方向での活動展開となる見込みです。いずれにしても高齢化による体力の低下は否めず二年続きの異常な高温のため、野外での夏季事業は無理と考えられるので一考が必要でしょう。通常総会開催日までまだまだ余裕がありますので会員の皆様からのご提案をお待ちしています。

方針原案を水曜日の事務局会議は、会員ならだれでもご参加いただいて意見を述べる事が出来ますのでよろしくお願いいたします。9時30分から12時には終了することになっています。

●ヤマトサンショウウオの取組

大船渡の山林火災は大変気になります。長い間まとまった雨が無く強風が吹き、手が付けられなかったのでしょうか。私たち里山の会はヤマトサンショウウオの産卵時期がきていたのに、雨が少なく、例年産卵していた水溜まりが干し上がって、これでは産卵が無理ではないかと非常に心配しています。昨夜からの雨で少し水溜まりが回復しているようですが、ヤマトサンショウウオの卵嚢が発見されていません。ニホンアカガエルの卵塊は発見されていて、里山農園の水溜まりでも発見されてもおかしくないと思います。いよいよこれからが本番だと思いますので、少なくとも農園作業日には確実な調査観察とその報告を里山の会にご連絡をお願いいたします。

●里山展示会 京田辺市中央図書館「甘南備ギャラリー」 3月11日(火)～16日(日)

これまで京田辺市中央図書館の展示室での里山展を毎年実施してきました。今年は年間の取組イベントの紹介と中学生の調査観察記録を展示する計画で、これまで以上に身近なところの発表となります。また幼児や子どもたちに大変人気の松かさツリーや苦心の作「竹サインペン」の展示もできればと考えています。ぜひたくさんの方のご来場をお待ちしています。

●炭焼き体験木炭の窯出し作業 3月8日(土)

これまでになく原木をコナラやエノキなど本来の木炭生産に使われていた原木を中心にした取り組みを行いました。まったくの素人が5回ほどの取組をしての結果です。出来栄が大変気になっています。良い炭ができあがっていれば炭焼きという大変難しい経験技術を伝承が出来たと胸を張る事が出来るのでしょうか？興味津々です。ご関心のある方のご参加をお願いいたします。木炭必要なお方には出来立てのものをご購入いただけます。木酢液も原液のままご購入いただくことができます。

●松かさツリーで参加タナクロ・オープンイベント 3月23日(日) 10時からオープン

里山の会としては京田辺市の市の木であるナンキンハゼの実を利用して同志社大学や普賢寺小学校の大王松の松ぼっくりを使ってツリーを製作してきましたので、これらを披露いたします。またここ数年苦勞して製作している竹サインペンの展示販売もできればと検討しています。

●2025 年度役員（理事）立候補受付開始 2025 年度 3月6日(木) 締め切り 3月11日(火)

2025 年度と 2026 年度のやましろ里山の会の理事の立候補者の受付を 3月6日から開始いたします。受け付け締め切委入りは 3月11日です。我れこそはと思われるお方が名乗り出て下さるのをお待ちしております。理事長は理事の互選で決定です。

●会誌 58 号原稿募集 原稿締め切り日 3 月 30 日（日） fddb257@yahoo.com まで送付ください。

定款で会誌発行は位置付けられた取組で、会員同士の連絡をしあう大切な最も重要な事業です。今年で結成 29 年目で 30 年を目前にしての会誌発行です。全ての会員様のご登場を「仲間の広場」部門に実現できないものかと企画を検討しています。積極的に毎情をお願いいたします。孫の事、子どもの事、自分の健康、気になる出来事、若かったころの心に残るエピソード、気の付くまま思いつく事なんでも一言お寄せください、あなたのご協力をお願いいたします。

●2025 年度会費の納入を 通常総会（4 月 23 日=予定）出席の必須条件

2024 年度の会費が未納の方がおられましたら積極的に納入をお願いいたします。世の中は大変な物価高が続きまして、会誌の郵送料に製作費をオーバーしているのが現状となっています。苦しい所をお察しいただきご協力を切にお願いいたします。

●第 27 回自然と環境講演会 3 月 1 日（土）

今回の取組は特別の手立て（はがき案内や新聞各所への広報案内）などを全く行わず、HP と週刊ニュースでの呼びかけでの開催でした。そして理事を中心にした案内で実行したことになります。いろいろ教訓を学び取ればいいのですが…。今回の主題は幼少の浅野悟史さんが大学准教授に歩んだ所を学びとっていただければとしていました。一部の声でしたが内容が濃く、良い企画であったとの感想を頂きましたが皆さんのご期待にお答えできる内容でしたでしょうか？

第27回 自然と環境講演会

子どもは自然の中でそだつ

3月1日（土）13:00～16:30

講師 京都大学准教授 浅野 悟史さん

会場 京田辺中央公民館 2階 研修室

京田辺市田辺丸山 214

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加
「昆虫博士になる」と決意 そして今、を話します

子育て中のお父さん お母さん ご参加ください

プログラム 参加費 無料

1部 やましろ里山の会から学んだこと
2部 今研究していること 環境ものさし
3部 子どもの発表会

主催 やましろ里山の会
共催 ぼれぼれらんど

申込は HP から

後援 京田辺市教育委員会

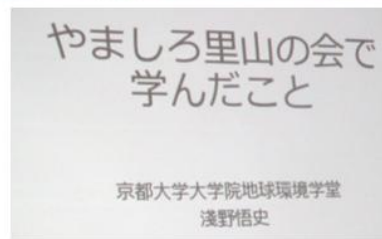
第 27 回 自然と環境講演会 参考資料

会誌「里山の自然」12 号

浅野悟史 氏 洛南高校在学時のレポート

当時オオムラサキの成虫（準絶滅危惧種＝京都府指定）を普賢寺谷で捕獲し、新聞各社に公表したところ、絶滅が危惧されているものを捕獲するとはとしてマスコミが疑問を鋭く投げつけてきた。これに反論するレポートを洛南高校在学中の浅野悟史さんに依頼しました。このレポートを送付して以来落ち着きを取り戻し、里山の会の採取等にかかわっての攻撃はなくなりました。

第27回 自然と環境講演会



母は丹後半島出身で小さい頃は裏山で虫取りをして遊んでいることがいい子であったとされる中で大きくなった。この母の影響で多くの事を学んだ。私はニュータウンで大きくなった。母が新聞記事で里山の会の昆虫観察会のことを知り、これに参加して、桜谷先生などから色々なことを教えられた。大学教授とは雲の上の人と考えていたが、直接教えて頂く事が出来て考え方が変わった。中学生になり受験勉強に全力傾注となり、里山の会とは遠く離れ、大学に入学して学習方法や海外へ研究に出かけ生物と環境などを学習した。自分の進む道は思い通りにならないことも経験させられた。卒業後は研究者としての方向に回り道をした。恩師の先生が研究で海外出張のため空いた席に呼び戻され今日の立場にある。子どもが出来て、幼児期の経験が大切と思う。そこで大学生と一緒に活動し学べる場(ラボ的な)を設ければと考えている。今日発表した研究成果は世界中どこでも活用できます。

2人の中学生の発表は素晴らしい内容(オオムラサキの観察・キタキチョウの観察)で、浅野先生や桜谷先生から高い評価がされました。



桜谷先生が中学生の時に作成したチョウの分布図を持参して説明していただきました。